

2017年度第1回理事会議事録

期 日：2017年7月9日（日）13:50～16:15

場 所：公益社団法人 日本放射線技術学会 東京事務所

出席者：内田 幸司，小倉 明夫，笠井 治昌，菊地 克彦，小林 靖宏，後藤 政実，高橋 光幸

寺田 理希，土井 司，沼野 智一，畑 純一，原田 雅史、山崎 良

委任：江田 哲男，大野 誠一郎，熊代 正行，中島 康雄，錦 成郎

出席 13 人，委任 5 人

報告事項

1. 2016年度第3回理事会以降の会務執行

3月8日 第3理事会（メール会議）：MR 専門技術者認定試験合格者の認定
第7回認定者の更新の認定

15日 第12回MR 専門技術者認定試験の結果をHPで公開

20日 認定試験合格証と不合格証の発送

28日 更新認定証，上級MR 専門技術者認定証の送付

4月20日 第12回日本磁気共鳴専門技術者の認定の申請手続き締め切り

5月1日 第12回認定者の申請者日本磁気共鳴専門技術者認定証の発行

2. 第12回MR 専門技術者認定試験

(1) 第12回MR 専門技術者認定試験受験者

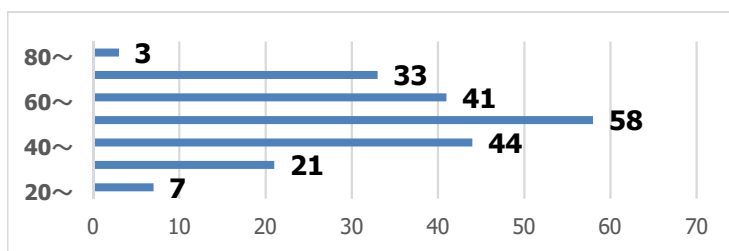
認定試験受験申請者：222人

T1値 T2値の測定に問題のあった5人は再提出にて審査合格

認定試験受験資格者：222人（書類審査失格者はなし）

認定試験受験者：207人（試験欠席：15人）

(2) 第12回認定試験結果



合格 88 人（合格率 42.5%） 平均 54.3 点

JMRM：44 人，JSRT：62 人，JART：75 人

男性：84 人，女性：4 人（4.5%）

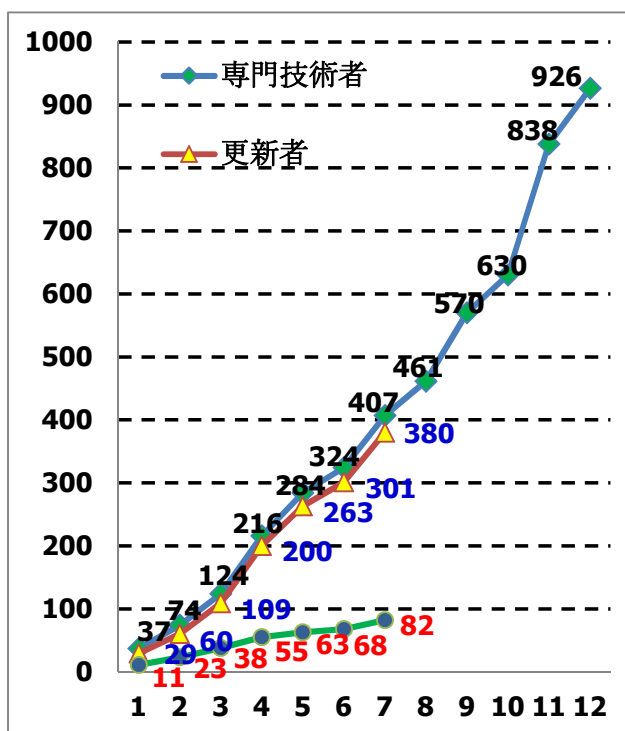
(3) 更新講習会

事前受講申込：45 人 当日申込：9 人 講習会受講者：54 人

3. 第2回・第7回認定 MR 専門技術者の更新

	更新対象者	更新申請者	上級専門技師	未申請者
第2回試験合格者2度目	36 (上級9)	31	12 (新規5)	5
第7回試験合格者	83	80 (-1)	14	3

回数	認定者		更新者		上級専門技術者	
	認定者	更新者	認定者	更新者	認定者	更新者
1	37	37	36	29	11	11
2	37	74	31	60	12	23
3	50	124	49	109	15	38
4	92	216	91	200	17	55
5	68	284	63	263	8	63
6	40	324	38	301	5	68
7	83	407	80	381	14	82
8	54	461				
9	109	570				
10	60	630				
11	208	838				
12	88	926		903		



男性：837人 女性66人（女性比率7.9%） 上級者比率8.9%

JMRM：478人 JRS：28人 JSRT：677人 JART：597人 JAMT：4人 JIRA：1人

4. 認定研究会の承認（2017年6月20日現在）

- 74) 20160720 山形 MR 技術研究会 工藤 秀夫（日本海総合病院）
- 75) 20161010 宮崎 MRI セミナー 小味 昌憲（宮崎大学医学部附属病院）
- 76) 20161013 Kanto Advanced MR Forum 北川 久（東京慈恵会医科大学第三病院）
- 77) 20161226 心臓血管 MR 画像研究会 後藤 吉弘（北播磨総合医療センター）
- 78) 20170302 札幌テクノロジーフォーラム 平野 透（札幌医科大学附属病院）
- 79) 20170315 胎児 MRI 研究会 川瀧 元良（東北大学病院周産期センター産婦人科）
- 80) 20170315 大分県 MR Masters 加藤 広士（新別府病院）
- 81) 20170524 奈良県 MR Conference 辰巳 英作（大和高田市立病院）
- 82) 20170606 福井 CT・MR 研究会 高橋 政史（福井総合病院）

注：本認定機構では参加希望者に制限がかかる研究会（ユーザ会や団体構成員が優遇される研究会）は承認しない方針を継続する（CT 認定機構はユーザ会を認めている）。

議事

1. 2017～2018 年度執行体制

- 理事長 原田 雅史 徳島大学（新任）
- 理事 内田 幸司 えだクリニック整形外科リハビリテーション科（留任）
江田 哲男 東京都済生会中央病院（留任）
大野 誠一郎 岡山大学病院（留任）
小倉 明夫 群馬県立県民健康科学大学（留任）
笠井 治昌 名古屋市立大学病院（留任）
菊地 克彦 地域医療振興協会 東京北医療センター（留任）
熊代 正行 倉敷中央病院（留任）
後藤 政実 北里大学医療衛生学部（新任）
小林 靖宏 日立製作所（新任）
高橋 光幸 横浜栄共済病院（留任）
寺田 理希 磐田市立総合病院（留任）
土井 司 高清会 高井病院（留任）
中島 康雄 聖マリアンナ医科大学（留任）
沼野 智一 首都大学東京大学院人間健康科学研究科（留任）
畑 純一 慶応義塾大学（留任）
山崎 良 天理よろづ相談所病院（留任）
- 監事 錦 成郎 天理よろづ相談所病院（留任）

2. 2017 年度の事業スケジュール

- 2017 年 7 月 9 日 第 1 回理事会 第 13 回試験のスケジュールの決定
- 2017 年 8 月中 ホームページで第 13 回試験案内の広報
- 2017 年 11 月 1 日～20 日 MR 医療安全セミナーの申込み受付
- 2017 年 12 月 3 日 MR 医療安全講習会（首都大学東京）
- 2017 年 11 月 1 日～12 月 8 日 第 13 回認定試験申請受付
- 2017 年 12 月 19 日～23 日 第 13 回認定試験書類審査
- 2018 年 1 月初旬 第 2 回理事会 認定試験受験者の承認
- 2018 年 1 月下旬 第 3 回・第 8 回認定 MR 専門技術者 更新手続き案内状送付
- 2018 年 2 月 1 日～24 日 第 3 回・第 8 回認定者の更新受付
- 2018 年 2 月 18 日（予定）第 13 回 MR 専門技術者認定試験（首都大学東京）
- 2018 年 3 月中旬 第 3 回理事会（メール会議） 認定試験合格者の認定

3. 2017 年度認定試験作成委員会（関西地区の専門技術者で構成）

2017 年度の認定試験の作成は昨年と同じ関西のメンバーが担当し、認定試験実行委員は関東のメンバーにお願いする。2018 年度は逆にする。

認定試験作成委員長 内田 幸司（えだクリニック整形外科）：基礎物理
認定試験作成委員 石本 剛（姫路循環器病センター）：応用技術
上山 毅（東京大学医学部附属病院）：アーチファクト・読影技術
大野 誠一郎（岡山大学病院）：パルスシーケンス・読影技術
小倉 明夫（群馬県立県民健康科学大学）：性能評価
笠井 治昌（名古屋市立大学病院）：撮像技術
京谷 勉輔（神戸大学医学部附属病院）：撮像技術
小林 靖宏（日立製作所）：精度管理，法規，安全性
高津 安男（大阪赤十字病院）臨床技術
土井 司（高井病院）：医療安全管理
原田 雅史（徳島大学）：読影技術
山谷 裕哉（奈良県立医科大学附属病院）：MRIに関する解剖

4. 2017年度認定試験実行委員案（関東地区の専門技術者で構成）

認定試験実行委員長 内田 幸司（えだクリニック整形外科）
認定試験実行委員 上山 毅（東京大学医学部附属病院）
小倉 明夫（群馬県立県民健康科学大学）
北川 久（東京慈恵会医科大学附属病院）
後藤 政実（北里大学）
小林 智哉（筑波メディカルセンター）
鈴木 儀典（東京医科大学八王子医療センター）
高橋 光幸（横浜栄共済病院）
土井 司（高井病院）
沼野 智一（首都大学東京）
畑 純一（慶応義塾大学）
山崎 良（天理よろづ相談所）

5. 第13回MR専門技術者認定試験の準備案

2017年9月初旬 認定試験作成委員への試験問題作成依頼
2017年9月～11月 試験問題作成
2017年12月17日（日）予定 第13回MR専門技術者認定試験作成委員会（京都）
2018年1月上旬 認定試験最終仕上げ
2018年2月17・18日（日）予定 第13回MR専門技術者認定試験準備委員会と認定試験

6. 第13回認定試験の方針

(1) 第12回認定試験での着目点

完全に新規の問題で正答率の悪い問題が2つあった。

(2) 出題傾向と回答方法

試験問題を公開しているのと、各地で試験対策研修会が開催されているので、前出問題とまったく同じ問題を出題しないようにする。

試験問題の難易度が変化しないように作成する。

回答の選択肢を惑わすような問題を作成しない（問題文をシンプルにする）。

(3) 認定レベル

基本的に 60 点を合格ラインとし、原則相対レベルは設定しない。

(4) 書類審査レベルについて

従来通り。性能評価試験の方法について注意書きを追記してもいいかもしれない。

(5) 更新講習会の案内

予約が必要であることを案内時に周知する。

7. 第 3 回・第 8 回認定者の更新について

(1) 第 3 回・第 8 回認定者への更新案内通知 [2018 年 1 月中旬]

(2) 申請書と更新のための個人票の提出 [2018 年 2 月 1 日～24 日]

(3) 更新審査（第 13 回認定試験時）[2018 年 1 月下旬 or 2 月下旬]

(4) 第 3 回・第 8 回更新認定書・上級磁気共鳴専門技術者認定書の発行 [2018 年 3 月]

8. 第 10 回医療安全セミナー開催案

(1) 開催日：2017 年 12 月 3 日（日）9 時半～18 時

(2) 開催場所：首都大学東京

(3) 研修会内容 従来の MRI 安全管理研修に加えて、MR 装置を使つての実験や解析などハンズオンセミナーなど新たな内容を検討する。

今年度は VTR 収録をしない。

(4) 担当：高橋理事に企画（講師ならびに内容）を一任する。

9. 学術活動

(1) 学術調査研究チームの募集について

- ・ 申請の時点で倫理審査を通している研究を支援
- ・ Web 公開に伴い、応募要項に「学会などで使用した資料を基にスライドを作成し提出していただく」旨が伝わる文面を追加
- ・ 審査基準の策定

学術委員が以下の 4 項目を 9 点満点で採点し、各項目の平均点の合計で採否を決定する。ただし 1 項目でも平均点が 5 点未満となった場合は不採択とする。

絶対評価に相対評価も加えて最終的な採択を決定する。

学術委員がチームに入っている場合は審査員から外れる

- ① 社会的貢献度 ② 実現可能性 ③ 研究経費の妥当性 ④ 申請書類の完成度
- ・ 会計報告書（A4 用紙 1 枚）：テンプレートを作成する。
- ・ 支援予算額を上回る件数が申請された場合は、過去の支援の有無を考慮に入れる。

(2) 海外国際学術集会への渡航支援

- ・ 機構へのフィードバックを考えると学会発表のための渡航支援は相応しくない。
- ・ トピックス記事の原稿料として海外学術集会への参加を支援する（発表は問わない）。
- ・ 原稿の字数や申請基準、審査基準などは後日提案する。
- ・ 予算として、5万円×5人=25万円を計上する。

(3) 各部位の推奨条件の検討について

- ・ 推奨撮像条件として再度班を構成する（推奨プロトコルとはしない）。
- ・ 地方ごとに担当者を依頼して班編成を依頼する。

10. 安全啓発活動

(1) 第45回磁気共鳴医学会シンポジウム3のVTR収録

「植込み型医療デバイスの安全なMRI検査を考える」

～より多くの方にMRIの恩恵を受けていただくための医療提供側の使命～

話題提供：MRI検査に判断が必要な植込み型医療デバイス [5分]

高清会 高井病院 土井 司

知識：生体内デバイスがMRIから受ける影響（吸引,発熱,故障,予期せぬ刺激など） [20分]

東海大学情報理工学部 黒田 輝

装置：患者の安全を管理するシステムと最近の装置の特徴 [15分]

日本画像医療システム工業会（JIRA）清水 徹（GEヘルスケア・ジャパン株式会社

環境：能動型の条件付MRI対応植込み型医療デバイスを安全に検査するための課題 [15分]

日本不整脈デバイス工業会（JADIA）小霜 彰（ハイテックジャパン株式会社

技術：安全なMRI検査を実施するための安全管理術 [20分]

日本医科大学付属病院 土橋 俊男

(2) 「安全なMRI検査を考える会」との協調

医療安全情報の共有：注意喚起情報を入手された場合は情報提供してください。

MRI Safety Forumの回答や運用に積極的に関与してください。

(3) 市民向けFAQサイト「安心してMRI検査を受けるために」のリニューアル

今年度中にリニューアルできるように準備を進める。

(4) 教育コンテンツの追加（高橋理事）

ホームページで公開中の4編に追加する項目を検討する。

11. 機構による事業

(1) 条件付MRI対応ペースメーカーの施設認定について（原田先生）

ペースメーカーを販売する5社が条件付きMRI対応ペースメーカー等のMRI検査を実施するにあたっての研修資料や施設基準の認定方法の統一を図っている。

この施設認定の更新や管理業務が機構に委託される可能性がある。

(2) MR専門技術者のバッジ（徽章）の作成

MR 検査室に入室できる材質を選ぶ必要がある。

畑理事が担当する。郵送費も含めて来年度予算に 360 万円を計上する。

- (3) 新医療の MR 装置供覧号に MR 専門技術者の名前の併記に関する要望
名前を雑誌に公開することでモチベーションと競争意識が高まる。
掲載可能かを新医療に尋ね、掲載の賛否を再度理事間で議論する。

12. 2017 年度予算案

2016 年度は、ほぼ予算とおりの執行となり 534,074 円の黒字だった。

次年度への繰越は、11,169,457 円となり 1 千万円を超えた。

2017 年度予算は、メディア開発費に重点を置いて、単年度予算・1,819,000 を立てたが、さらに推奨撮像条件策定のための班活動費(30 万円×9 班=270 万円)とバッジ作成費(360 万円)を加えて予算案を立て直す。

13. 本認定機構の委員会活動の役割分担

1) 総務委員会

委員長：土井 司 委員：熊代 正行

2) 学術委員会（研究班活動・認定試験実施と試験作成）

委員長：内田 幸司 委員：沼野 智一，寺田 理希，小倉 明夫，畑 純一

3) 教育委員会（医療安全・更新制度・専門技術者活動）

委員長：高橋 光幸 委員：笠井 治昌，大野 誠一郎，後藤 政実

4) 広報委員会（渉外・ホームページ管理）

委員長：江田 哲男 委員：山崎 良，小林 靖宏，菊地 克彦

14. 倫理研修について（ICR 臨床研究入門「臨床研究の基礎知識」e-learning）

MR 専門技術者に倫理研修は必要であるが、ICR は実験方法などが主になっているので、MR 専門技術者に必要な倫理知識について別にまとめる必要がある。

15. 個人データベース管理システムの構築

現システムでは会員情報の変更・更新などの対応が限界にきている。

データを一元化しサーバ管理にしたい（変更情報が画一的に管理できるため）。

所属や住所の変更は自身で登録内容を変更するシステムにする。

JSRT の管理サーバへのアクセス（併用）を検討する。

16. 上級 MR 専門技術者の公開に地域別の設定について

地域別氏名の前に☆印を付けてわかるようにする。

17. 認定研究会の審査

- (1) MISSION-Tohoku 代表 高橋大樹（国立病院機構仙台医療センター）

全員一致で承認（研究会に MRI の内容を常に含むように要望を入れて返答する）。

18. 専門技術者認定機構連絡会議報告

- (1) 統一化の一步として更新ポイントの整合性を考えている。
- (2) 事務所（例えば、独立した事務所ではなく JSRT に間借りをし、専門機構の業務に多くの時間を費やせる事務員を雇用する）を共同で所有することも視野に入れる。
- (3) 7月28日の JSRT・JART 連絡会で認定機構連絡会に対して JART から提案が出る。
- (4) 専門技術者の望んでいることを考える。
 - 1) MR 専門技術者の存在価値を社会から認められる（高い評価を受ける）こと。
 - 2) 給料に反映されること。保険点数に認められること。などが考えられるが、
 - 2) の実現性は現状では考えにくいので、1) の達成を目標に活動する。

19. その他

- (1) 第2回理事会 2018年1月中旬に開催予定
認定試験が2月中旬になったので理事会を12月中に開催するかもしれない。
- (2) NPO 法人としての貸借対照表の公開
公開することに問題がないが、財産（繰越金）や資産（PC など）が明らかになる。
定款の一部に追記する必要がある。
市役所への届出だけで OK（法務局には提出しなくてよい）。

以上